

会計名			スクールガードリーダー配置事業				担当部	教育部			
一般会計							担当課	学校教育課			
款	項	目					課等長名	山田 基			
10	1	3	作成者	加藤 祐介							
P A A N	事業概要	第7次総合計画	分野 基本施策 施策の内容	教育文化 学校教育 安全・安心で地域に開かれた学校づくり							
		目的	児童が安心して学ぶことができるよう、全小学校でスクールガードリーダーによる巡回やスクールガードに対する指導を行いながら、効果的な安全体制を整備する。				主たる内容	警察OBのスクールガードリーダーを配置し、専門的な視点からスクールガードの指導を行ったり、登下校時に巡回指導をしたりして、児童の安全を確保する。			
		対象者	小学校、小学校児童及び保護者								
		実施方法	直営	位置づけ	関連計画						
事業期間	H19～		根拠法令								
B D O	事業実績	20年度実績		21年度実績		22年度実績		23年度計画			
		市内を南部と北部の2つに分け、1名ずつ、警察OB2名のスクールガードリーダーを配置した。それぞれ300時間と250時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保した。		警察OBのスクールガードリーダーが1名病気のため欠員し補充できず、1名のみ配置となった。750時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保した。		北部と南部に1名ずつ、警察OB等の2名をスクールガードリーダーを配置した。それぞれ400時間と350時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保した。		市内を北部と南部及び中部の3つに分け、それぞれに1名ずつ、3名の警察OBのスクールガードリーダーを配置する。それぞれ250時間の活動計画で各小学校の安全体制及び登下校時の児童の安全を巡回指導等により確保する。			
		成果 (できたこと)	2名のスクールガードリーダーが、市内を北部と南部に分けて、各学校を巡回し、実際に通学路の安全管理体制を評価したり、各校のスクールガードを指導したりしたことで、各校の安全管理についての意識が高まり、児童の安全が確保された。								
		課題 (できなかったこと)	スクールガードリーダーの巡回を希望する学校が同じ日、時刻に重なってしまい、各学校の要望に十分に答えることができなかった。 今後は1名増員して、北部、中部、南部に配置し、よりきめ細かい対応が必要である。								
		指標名称			実績値			目標値			
					20年度	21年度	22年度	23年度	25年度		
スクールガードリーダーの人数			2人	1人	2人	3人	3人				
登下校時の児童の事故			3人	4人	3人	0人	0人				
他市との比較検証											
C	事業コスト	総事業コスト	20年度 (決算)	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (予算)	平成22年度 事業費内訳				
		単位：千円			2,546	3,186	8 報償費	1,657,500 円			
		事業費	1,975	1,339	1,749	1,968	11 需用費	39,217 円			
		特定財源		0	0	0	12 役務費	52,160 円			
		一般財源		1,339	1,749	1,968	合計	1,748,877 円			
		職員人件費			797	1,218					
建設事業	全体事業費		0		備考(補助名称等)						
	22年度迄の累積事業費		0								
	24年度以降の事業費見込										

会計名			スクールガードリーダー配置事業	担当部	教育部
一般会計				担当課	学校教育課
款	項	目		課等長名	山田 基
10	1	3		作成者	加藤祐介

		各視点からの評価		評価の理由・特記事項	内部評価総括			
CHECK (評価)	D 内部評価	必要性	高い	児童が安心して学校生活を送るためには必要な事業である	警察OBのスクールガードリーダーが小学校の通学路を巡回し、安全管理体制を評価し、スクールガードへの指導を実施することで、児童の安全を確保することができている。 学校行事などで不特定多数の人が学校に出入りする場合、スクールガードリーダーが中心となり、スクールガードとともに児童の安全を見守っている。児童の避難訓練や防犯訓練に参加し、評価をして課題を見付け改善を図っている。一斉下校等で児童の下校の安全を確保しながら、通学路の交通安全上、防犯上の危険箇所をチェックし、学校に伝えている。警察とのつながりがあるため、防犯上必要な際は、警察への提言も行っている。	行政評価委員の総括	評価年月日	平成23年8月3日
		効率性	高い	スクールガードリーダーが効率的に各学校を巡回し、児童の安全体制を整備している				
		妥当性	高い	安全・安心で地域に開かれた学校づくりをする上で、不審者の侵入対策、通学路での防犯対策の推進のための事業である				
		施策への貢献度	高い	児童の安全体制を整備することができている				
CHECK (評価)	E 外部評価	○ 親の立場では一般の下校時が一番心配。本当に危なく目の届かない裏通りや路地の通学路などを日常の暗くなる時間に巡回してもらえると、犯罪の防止、防犯の啓発になる。 ○ 不審者による犯罪を防止することも目的としているのなら、現状を正しく把握し、対策を立てることが必要である。スクールガードを配置することでどれだけ防犯効果があったのかを示してほしい。 ○ 登下校時は不審者対策に力を入れてほしい。交通事故の防止では趣旨が変わってくる。 ○ スクールガードリーダーの配置時間が1人250時間というのは短い。月に20時間ほどで効果があるのか。スクールガードとしてシルバーさんや無償のボランティアなどを上手く組み合わせて、事業に取り組んで行くことはできないか。学校関係者だけに捉われず、効果的な事業展開を広く考えてほしい。 ○ 町内会と学校でなかなか連携ができていないのではないかと。子どもの安全を守るという意識で事業に取り組んでほしい。						